

2025 年度入学式 式辞

神戸松蔭大学

学長 徳山孝子

新入生の皆さんご入学、まことにおめでとうございます。神戸松蔭大学の教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。ご列席いただいたご家族、関係者の皆さま方にも感謝と御礼を申し上げます。今日は、神戸松蔭大学として、新しい一步を踏み出しました。皆さんは、神戸松蔭大学の一期生ということになります。

さて本学の歴史は、今から 133 年前の明治時代中頃に、イギリス人宣教師が設立した松蔭女学校にさかのぼります。私が 17 年前に本学に着任したときに「神戸松蔭は愛と自由の精神です」と聞いたことを、今でも鮮明に覚えております。その意味をあらためて考えますと、ここは人と人との繋がりが温和で、とても居心地のいい空間です。それは開学以来大切に継承してきた「他者を思いやるキリスト教の愛」が根づいているからです。皆さんにも、伝統を受け継ぎ、他者を思いやる気持ちをもって充実した大学生活を築いていってほしいと願っています。

社会は、かつてないスピードで進む技術革新、環境問題の深刻化など、変革期を迎えるなかで、主体的に問題と向き合い、自らの道を切り拓いていく人材を育てるため、大学教育の革新を続けています。「多様性の理解と受容を生かす教育」を柱の一つに掲げ、多様な人々と交流し、自分とは異なる考え方・価値観に触れる教育に力を入れています。性別・年齢・国籍の枠を超えて交流し誰もが可能性を拓いていくことのできるキャンパスを実現しています。

本日ここにこうして、皆さんが神戸松蔭大学の一員になられた最初の日に、大学モットーと社会の変化に対応した大学の学びについてお話ししたいと思います。

先ほど、本学は 133 年前の松蔭女学校から出発したと言いましたが、現在は学校法人松蔭女子学院が松蔭中学・高等学校と本学を運営しています。大学モットーを紹介したいと思います。それは、「一粒のからし種」です。からしの種が一粒ということです。聖書にあるイエス・キリストの言葉に由来しています。

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど

大きな枝を張る」(マルコによる福音書 4 章 30-32 節)

すなわち、小さな種でも、姿かたちを変えながら成長し、やがて鳥が枝に巣を作るほどの木になるという意味です。一粒のからし種という言葉は、大きく成長する可能性を持つ小さな種を表しています。大学モットーは、その小さな種が大きく成長することを期待して“Open Yourself, Open Your Future”としています。Open Yourself は、自分を解放すること、Open Your Future は自分の未来を拓くことです。すなわち、学生の皆さんが、無意識のうちに自分を閉じ込めてきた殻を破って自分を解放し、心を開いて成長し、卒業後の未来を切り拓いていくことを期待するとともに、私たち教職員が皆さんの成長の手助けをすることを示しています。

神戸松蔭大学として出発するにあたって、大学のめざすべき方向を示す新しいロゴマークが完成しました。皆さんのお手元に届く学生証にもロゴマークが記されています。新しいロゴマークは、広がる未来・多様な人々を受け入れる姿勢を表現し、より自由に開かれた印象となるよう、窓をモチーフにしています。下の黄色の3つの点は、「松蔭に集うからし種(人が集う様子)」をイメージしています。一人ひとりの力を合わせて、新しい社会の在り方を考え、作り上げていく大学にしたいと思います。

皆さんはこれからそれぞれの学問分野で勉学にいそむことになるわけですが、皆さんがここでどのように過ごすのかは、皆さんの心がけ次第です。学ぶということを真摯に向き合って頂きたいと思います。その過程では、高校で学んだように答えのあるものばかりではありません。絶えず試行錯誤を繰り返しながら考え続け、新たな知識を修得し、真の実力を養っていただきたいと思います。一方、情報技術の普及、SNS の普及によりフェイクニュースや感情的な意見が瞬時に世界中に拡散され、世論形成にも影響を与えうる現実もあります。最先端の知識・技能を学びつつも、情報の正確さを見抜く力、あらゆる情報を客観視する姿勢を身につけていただきたいと思えます。

今日から皆さんは、神戸松蔭大学生として新しいスタートが切られました。一人でも多くの人たちと出会い、自分らしく伸び伸びと成長していかれることを期待しています。本日は、まことにおめでとうございます。